

## 事例 : No. 19

### 【集約化林業に向けた機械化の推進】

1. 林業事業体等名称 たいき 大紀森林組合 (三重県大紀町)

#### 2. 林業事業体等の概要

- ①年間素材生産量 5, 500m<sup>3</sup> (うち 間伐の占める割合 30%)  
②生産する主な樹種 スギ、ヒノキ  
③素材生産に関わる作業員数 6名

#### 3. 取組の特長

- ・大紀森林組合は県中南部の大紀町を管轄区域としています。  
(森林面積 21,166ha スギ・ヒノキの人工林率 69%)
- ・平成 8 年より高性能林業機械を使用した主伐・搬出間伐等の林産事業への取り組みを始めました。そして、平成 18 年より森林所有者の要望に応えるため、施業の集約化や作業道の開設に取り組み、搬出間伐により利益を還元することができるよう低コスト化を目指しています。
- ・また、少しでも多くの利益を還元するため、山土場で仕分けを行い、出荷先を地元の原木市場や合板工場、チップ工場等とし多様化を図っています。

#### 4. 具体的な内容

##### ・集約化

平成 18 年度から集約化団地の設定を開始し、平成 22 年度現在、8 団地(1 団地当たり約 6.0ha)を設定しています。

集約化することにより、小面積の林分をまとめて施業することができ、また、B材、C材についてもロットがまとまるため、合板工場やチップ工場への販路が広がりました。

##### ・使用機械

スイングヤーダ 1 台、プロセッサ 2 台、フォワーダ 1 台、タワーヤーダ 1 台、グラップル 3 台、グラップル付トラック 1 台

##### ・基本作業システム

従来、木材の生産は、チェーンソー伐採→スイングヤーダ集材→チェーンソー造材→2 トントラック搬出という作業システムで行っていましたが、現在では、チェーンソー伐採→グラップル or スイングヤーダ集材→プロセッサ造材→フォワーダ搬出へと作業システムを改善しました。

この作業システムへと改善するなかで、プロセッサを導入したことにより、造材作業の効率性は飛躍的に向上し、また、フォワーダの導入により、作業道作設の自由度が高まり、広範囲からの出材が可能となりました。

作業道の作設には、大橋式作業道を参考として、壊れず、利用しやすい道づくりを心がけ、地形図上での線形の検討や現地踏査に時間をかけています。作設時には、切土高さを1.4m以内にすることや尾根部での排水、ヘアピン箇所での外側排水、盛土箇所での丸太組工の施工などに留意しています。

・生産性

平成18年度 3.1m<sup>3</sup>/人 → 平成21年度 5.1m<sup>3</sup>/人

・出荷先

A材：地元の原木市場

B材：合板工場、ダンネージ製造工場

C材：チップ工場、木質バイオマス燃料チップ工場

5. 今後の取組等

- ・現在、林産班は1班体制ですが、今後は人員を充実させ2班体制にして素材生産量を拡大していく予定としています。
- ・また、施業の集約化をさらに推進するために地域リーダーの育成に力を入れることとしています。



集材状況



プロセッサ造材積み込み



丁寧に開設された作業道



間伐後のすっきりした森林

【報告者】

三重県環境森林部森林・林業経営室  
林業普及指導員 柳田 国男